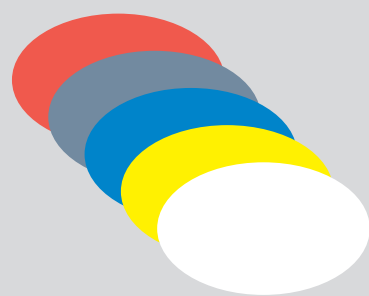


2025年度 福知山公立大学 北近畿地域連携機構

年次報告書

ANNUAL REPORT 2025

DIGEST VERSION



キターレ基幹事業

NEXTユニット NEXTP産業創造プログラム

福知山から新たな産業の芽を育てる起業支援プログラム

NEXT 産業創造プログラムは、地域の持続的発展を担う人材の育成を目的に、大学・福知山市・産業界が連携して実施する起業家教育プログラムです。社会人の学び直しを重視し、起業に必要な知識と実践力を短期間で体系的に修得できる仕組みを構築しています。

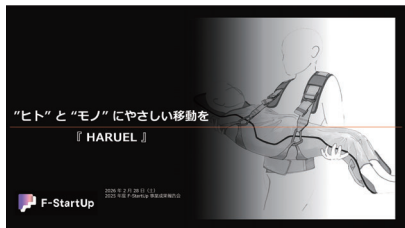
2025年度は、基礎3科目とPBL型科目を運用し、受講生16人が修了しました。SHIBUYA QWSでの実践的な学びや受講生主催イベント、成果報告会を通じて事業化を推進した結果、クラウドファンディング2件の成立(総額252万円)や15件の事業連携が実現するなど、地域発の新たな挑戦と産業活性化につながる成果を創出しました。



SHIBUYA QWSでの実践的な学びの様子

福知山発のスタートアップ支援事業「F-StartUp」

「F-StartUp」は、NEXT 産業創造プログラムの修了者(見込者含む)を対象に、事業拡大を支援する起業家支援事業として、11月より開始しました。本事業では、起業コンサルタントが伴走するハンズオン支援型と、クラウドファンディングを活用した資金調達を支援するクラウドファンディング型の2つの支援形態を設けています。これらの支援を通じて、福知山発スタートアップの育成と、地域に根ざした新たなビジネスの創出を目指しています。



F-StartUp 参加者による新規事業

福知山市NEXT産業創造プログラムの成果評価ー産業課題に対するKPI分析ー

情報コミュニケーション学会第23回全国大会(テーマ:「人と技術の調和が拓くウェルビーイング」)が、大手前大学さくら夙川キャンパスにて開催され、本プログラム担当教職員により「福知山市NEXT 産業創造プログラムの成果評価ー産業課題に対するKPI分析ー」が発表されました。本研究は、福知山市と本学が連携して実施してきた5年間の起業家育成プログラムについて、ロジックモデルに基づくKPI分析を通じ、その成果を検証したものです。地方小規模都市における産業支援の新たなモデルを、実証データに基づき発信する機会となりました。

創出プロジェクトとKPI成果 (5年累計)

108名	32件	967万円	7件	71件
修了者数	起業プロジェクト数	資金調達総額	ベンチャー企業数	新規事業数
2021	10	100	1	10
2022	15	150	2	15
2023	20	200	3	20
2024	25	250	4	25
2025	38	367	7	38

5年間の累計実績を報告

FabLab Fukuchiyama for 北近畿 ユニット

地域のFabLab活用事業

地域に開かれたデジタルものづくりの共創拠点

教職員および市民に開かれたデジタルファブリケーション拠点を整備し、北近畿地域におけるものづくりDXの推進と産業活性化を図る取り組みです。レーザーカッターや産業用3Dプリンタを活用し、設計から試作までを一貫して体験できる公開講座や技術支援を実施。福知山商工会議所会員事業者向け講座や製作相談にも対応し、地域企業との連携を広げています。

2025年度は、レーザーカッター体験講座および3Dプリンタ体験講座を開催し、基礎知識の習得からデータ作成・造形までを実践的に学ぶ機会を提供しました。参加者アンケートでは高い満足度を得ており、FabLabを起点とした学びと共創の場づくりが着実に進んでいます。



レーザーカッターによる加工に挑戦する講座参加者

北近畿地域連携機構(キターレ)が中心となり、地域の課題解決や人材育成を目的に、起業支援、ものづくり支援、地域交流、教育連携など多様な取り組みを実施しています。地域や教育機関、企業と連携して展開している主な基幹事業を紹介します。

まちかどユニット まちかどキャンパス吹風舎

地域と大学がつながり育て合う交流拠点。

まちかどキャンパス吹風舎は、大学と地域をつなぐサテライト拠点として、学生・教職員と市民が出会い、学び合い、協働する場です。持続可能な地域社会を担う人材育成を目的に、多様な交流・実践活動を展開しています。

2025年度は、ギャラリー展示やライブ러리運営、ゼミ・学生団体・市民利用による「まちかどベース」の活用、毎週開催の「まちかどCafe」、通りがかりに参加できる「まちかどクイズ」などを実施しました。さらに、福知山踊りや大工技術体験など、地域資源を活かしたシビックプライド醸成事業にも取り組みました。

日常の小さな対話と協働を積み重ね、大学と地域がともに場を育てる拠点として機能しています。

- まちかどベース
ゼミ活動や学生団体のイベント、市民の貸切利用などに活用され、多様な学修・交流活動を展開。
- まちかどCafe
毎週水曜日に開催。延べ約260人が参加し、市民と大学がともに場を育てる取り組みへ発展。
- まちかどクイズ
子どもや地域住民が気軽に参加できる企画を実施し、4月から12月までに延べ1,303人が参加。



常連の参加者がホスト側として参加し、ともに場をつくるまちかどCafe



学校組織レジリエンスユニット 北近畿地域の教育機関を対象とした様々な支援/協働

地域とともに、しなやかで強い学校組織を育てる教育支援ユニット

内閣府 SIP 第3期の研究拠点指定を契機に設立され、北近畿地域の教育機関と連携しながら、学校組織のレジリエンス向上と教育実践の高度化を推進するユニットです。

学生の地域連携型学修機会の創出、教育機関への伴走支援、研究活動の展開を柱に、自治体教創コンソーシアム設立準備会の開催や、教員・管理職向け研修、オンライン教員カウンセリングなどを実施しました。特別支援教育や組織マネジメントをテーマとした各種研修には多くの教育関係者が参加し、実践的かつ継続的な支援を通じて、変化や危機に柔軟に対応できる学校づくりを後押ししています。



「語り合い 学び合い つながり合う 自治体教創コンソーシアム」設立準備会発足発表会の開催



長田野工業団地との連携

企業と連携し、地域産業への理解を深める

長田野工業団地は福知山市の産業を支える中核拠点であり、本学では地域企業との連携を通じて、学生が最先端のものづくりや技術開発の現場を体感できる機会を創出しています。

2025年度は、株式会社PILLAR福知山第2工場およびエスベック株式会社福知山工場で見学・交流会を実施しました。

株式会社PILLARでは、流体制御機器や半導体関連製品の製造工程・品質管理体制を学び、見学後は学生団体STLによる活動発表と意見交換を行いました。また、同社は本学食堂のネーミングライツパートナーとして「PILLAR Dining」を支援しています。

エスベック株式会社では、環境試験器の社会的役割や製造工程を見学し、世界水準の技術を支える現場の工夫について理解を深めました。

本取り組みにより、学生は地域に立地する企業の技術力や理念に触れ、地域産業への理解を深める機会となりました。また、教員にとっても地域企業の技術や事業内容への理解を深め、共同研究や産学連携の可能性を探る契機となっています。今後も地域企業との連携を進展させ、実践的な学びの機会の充実を図っていきます。



株式会社PILLAR第2工場での見学の様子



キターレ基幹事業

地域公開講座・リカレント教育

市民講座

本学教員の専門的知見を広く市民に還元し、持続可能な地域社会の形成に寄与することを目的とした公開講座です。2025年度は2回開催し、地域経営学部では観光行動データ分析とAI活用による観光施策の可能性を、情報学部では生体計測技術やMEMS技術の研究事例と地域産業への応用展望を紹介しました。いずれも最新研究をわかりやすく解説し、先端技術と地域課題を結びつけて考える機会を提供しました。



第1回：観光行動データ分析の最前線
～福知山から未来へ～

第2回：生体計測技術が切り拓く
将来の地域産業



シニアワークカレッジ

シニアワークカレッジは、福知山市の委託を受けて実施している、シニア世代を中心とした高度情報教育プログラムです。地方における労働力不足の深刻化やDX推進への対応を背景に、ビジネスの現場で活用できる実践的かつ専門的な情報教育を提供しています。2025年度で5年目を迎え、地域におけるリカレント教育の重要な取り組みとして定着しています。

各講座では、基礎理論の理解にとどまらず、演習や実践課題を通じて実務に応用できる力の養成を重視しました。少人数制による丁寧な指導や、学生TAによるサポート体制も整え、受講者が自らのペースで学びを深められる環境を構築しています。

開講コース

- 数理・データサイエンスコース
- Pythonプログラミング入門とドローン自動操縦コース
- 広報用動画制作コース
- 生成AIコース【基礎・応用】



生成AIコース【基礎】の様子

小学生のためのプログラミング教室 中学生のための夏休みIT講座

福知山市・丹波市・朝来市と連携し、小中学生を対象にプログラミングやIT分野の体験講座を実施しました。本事業は、情報技術の楽しさを伝えるとともに、論理的思考力や創造力を育み、北近畿地域の将来を担う情報人材の育成につなげることを目的としています。包括協定に基づく3市との継続的な取り組みとして定着しており、2025年度も多数の応募がありました。

講座では、本学情報学部の教員と学生が連携し、体験型・少人数制の学習環境を整備。子どもたちは大学生のサポートを受けながら、試行錯誤を重ね、自ら考え、創り上げるプロセスを体験しました。アンケートでは満足度も高く、「また参加したい」「もっと学びたい」といった声が多く寄せられました。

また、講座運営に携わった大学生にとっても、教材開発や指導補助を通じて実践的な力を養う貴重な学修機会となりました。

実施講座

- 小学生対象
- ゲームでプログラミング
- プログラミング道入門
- 中学生対象
- ロボットカー製作講座
- サウンドクリエイティブ講座



ロボットカー製作講座の様子

北近畿地域連携機構（キターレ）が中心となり、地域の課題解決や人材育成を目的に、起業支援、ものづくり支援、地域交流、教育連携など多様な取り組みを実施しています。地域や教育機関、企業と連携して展開している主な基幹事業を紹介します。

北近畿コラボスペース活性化ユニット 北近畿コラボスペース

地域の挑戦をつなぎ、共創を生み出す産学公ネットワーク

北近畿コラボスペースは、産学公の連携を促進し、北近畿地域における新たな価値創出を目指して設立されたネットワーク型組織です。従来の対面中心の会議体から発展し、Slack等の情報ツールを活用した日常的な情報共有と、リアルな交流機会を組み合わせることで、会員同士が自発的につながる仕組みを構築しています。

全体集会やテーマ別交流会を通じて、大学教職員・学生、自治体、企業、各種団体が分野横断的に交流し、地域課題の共有や協働のきっかけづくりを進めています。会員・連携団体数も着実に増加しており、地域に開かれた実践的な連携基盤として発展を続けています。

北近畿コラボスペース交流会～「福祉」ってなあに？福祉のプロに聞いてみよう！～

2025年7月12日、福知山市総合福祉会館にて開催しました。本交流会は、福知山市社会福祉協議会との初の共催事業として実施し、本学学生や明治国際医療大学の学生を中心に約20人が参加しました。

福祉の現場で活躍する専門職をゲストに迎え、ワールドカフェ形式の対話プログラムを実施。「高齢」「障害」「児童」「地域」といった多様な分野の実践者が各グループを回り、参加者との対話を通じて、仕事内容ややりがい、現場の課題などを紹介しました。学生にとっては、福祉の現場を身近に感じ、将来の進路や地域活動を考えるきっかけとなり、地域の専門職との新たなつながりが生まれる場となりました。



ワールドカフェで福祉について学ぶ参加者たち



STL助成金

学生の地域挑戦を後押しする実践型助成制度

STL(Students Launch)助成金は、本学学生が主体的に取り組む活動のうち、地域活性化に寄与し、成果が期待できるものに対して活動費を助成する制度です。

2025年度には12件の申請があり、書類審査とプレゼンテーション審査を経て、11件が採択されました。

Tsunaga Room プロジェクト

「Tsunaga Room プロジェクト」は、「地方創生」をミッションに掲げて活動しています。運営するフリースペースでは、委託販売サービス「ハコカラ」を展開し、日本各地のクリエイターと地域住民をつなぎ仕組みづくりに取り組んでいます。2025年度は、ご利用いただくクリエイターが50組を超え、多くの方々にご来店いただきました。ペーパークーに乗ったお子さんから93歳の高齢の方まで、世代を超えた多様な交流が生まれたことも、本プロジェクトの大きな成果の一つだと考えています。また、「利用者から利用料を取らない」という持続可能な運営モデルを追求し、地域の方々に負担をかけることなく日常的な接点を生み出すことで、地域の活性化に寄与しています。



日本各地のクリエイター作品が集う「ハコカラ」



地域との連携・地域への貢献に関する教員の活動

地域経営学部

経済産業省「地域の人事部」事業における講演・講義の実施

担当教員：地域経営学部 教授 亀井省吾

関係組織：MIYAZU 未来デザインセンター（宮津市・京都北部信用金庫・人材ニュース株式会社）

少子高齢化や人材不足、事業承継などの課題を抱える地域中小企業の経営高度化を目的とした経済産業省「地域の人事部」事業の一環として、MIYAZU 未来デザインセンターでは、「海の京都」地域企業と都市圏ビジネス人材をつなぐ経営幹部（CxO 候補）インターンシップ・プログラムを展開しています。本プログラムに関連し、本学地域経営学部の亀井教授が講演および講義を担当しました。キックオフ講演では、地域企業で経営に挑戦するキャリアの“第三の選択肢”を提示しました。また、企業向けセミナーでは「第二創業」やストックオプションを活用した価値経営について提案。首都圏を中心に多数の参加を得て、地域企業と都市人材の新たな接点創出と、経営アップグレードへの意識醸成に貢献しました。



セミナーでの基調講演の様子

観音寺自治会所蔵近代史料調査・保存プロジェクト

担当教員：地域経営学部 教授 小山元孝

関係組織：観音寺自治会

福知山市観音寺地区は、補陀落山観音寺で知られる歴史ある地域ですが、寺院以外の地域史研究は十分ではありませんでした。2024年、自治会所蔵の古文書や絵図の価値を知りたいとの相談を受け、教員と学生による史料調査・保存活動を開始しました。

自治会には江戸時代から昭和初期にかけての文書・絵図が多数残されており、阿比地神社関係資料も含まれていました。まず目録作成に着手し、明治期から昭和30年代の神社関連文書38点を確認。重要資料は写真撮影により記録保存を行いました。

2025年11月1日には観音寺公会堂で特別公開「観音寺村の変遷」を開催し、約70人が参加。地域の歴史への関心を高める機会となりました。今後は資料整理と保存体制の整備を進め、地域資源としての活用を目指します。



自治会所蔵資料特別公開「観音寺村の変遷」の様子

「すぐに役立つ日本語講座@丹波」サポーター

担当教員：地域経営学部 教授 渋谷節子

関係組織：丹波市まちづくり部人権啓発センター、丹波市国際交流協会

外国籍市民の増加を背景に、日常生活に直結する日本語を学ぶ講座が開催され、本学教員と学生がサポーターとして参加しました。講座は2025年11月から2026年1月にかけて全8回実施され、入門・初級レベルの外国人市民12人が受講しました。

テーマは「防災」「防災ポトルづくり」「ごみの分別」「丹波を楽しむ」など生活に密着した内容で、学生は「やさしい日本語」を用いて個別支援や活動補助を担当しました。回を重ねる中で自然な交流が生まれ、学習者と学生が互いに学び合う関係が形成されました。

本事業は、日本語教育を支える人材の広がりに寄与するとともに、外国籍市民と地域社会をつなぐ新たな接点を創出し、相互理解を深める機会となりました。



「すぐに役立つ日本語講座@丹波」で
ごみの仕分けについて学ぶ外国人市民

地域経営学部では、地域社会や行政、企業、学校等と連携し、地域課題の解決や地域資源の活用、多文化共生の推進などに関する多様な研究・実践活動を展開しています。地域と協働して取り組んだ地域経営学部教員の主な活動事例を抜粋して紹介します。

福知山市内社会福祉施設におけるBCPジレンマゲーム・初動対応BOX設計支援

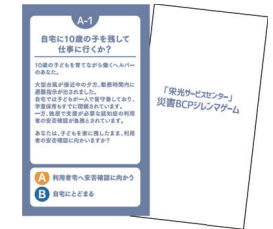
担当教員：地域経営学部 准教授 大門大朗

関係組織：福知山市（危機管理室・福祉保健部）、栄光サービスセンター、駅南ニコニコハウス、厚ニコニコハウス

度重なる水害の経験と、社会福祉施設におけるBCP（事業継続計画）策定の義務化を背景に、市内福祉施設と連携し、実践的な防災体制づくりを支援しました。

栄光サービスセンターでは、災害時の判断の迷いに着目したオリジナル教材「災害BCPジレンマゲーム」を開発。利用者の避難判断や出勤困難時の対応など、正解が一つではない場面をカード化し、職員同士で議論することで、自らの判断軸を養う研修モデルを構築しました。

また、厚・駅南ニコニコハウスでは、最初に到着した職員が迷わず行動できる「初動対応BOX」の設計を支援。写真付きカードで行動手順を可視化し、施設特有のリスクを反映しました。現場で“使えるBCP”の実装を通じ、災害対応力の向上を図っています。



オリジナル教材「災害BCPジレンマゲーム」

学生主体による農産加工品の市場拡大を目的とした地域ブランド推進事業（京都中丹いちおし商品を核とした産学官連携実践）

担当教員：地域経営学部 准教授 張明軍

関係組織：京都府中丹広域振興局、京都中丹いちおし商品認定事業者

農産加工品分野では、新商品開発に伴う投資負担やリスクが課題となっています。本事業では、新規開発ではなく既存商品の価値を再発見・再編集し、その魅力を再発信することで市場拡大を目指しました。

「京都中丹いちおし商品」を核に、学生が主体となって販売・PR活動、AIを活用したアレンジレシピ開発、製造現場視察、ホームページ刷新、CM動画制作、AIセミナー開催など多角的な取組を展開。百貨店や地域イベント等での実地販売を通じ、販売環境や顧客層による購買行動の違いを実践的に分析しました。

さらに、「学生×AI×プロ料理人」によるハイブリッド型レシピ開発モデルを構築し、地域性と信頼性を兼ね備えた新たな価値提案を実現。産学官にAIも加えた実践的な地域ブランド推進モデルを創出しました。



実地販売を通じたマーケティング実践の様子

高齢者生活行動データの分析から高齢者疾患（認知機能低下・その他疾患）の早期の気づきを促す

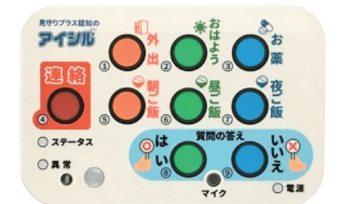
担当教員：地域経営学部 准教授 星雅文

関係組織：株式会社アイトシステム

家族の脳卒中発症をきっかけに、独居高齢者の異変を早期に察知する仕組みの必要性に着目し、見守りシステムの生活行動データを活用した研究を開始しました。

株式会社アイトシステムが提供する「見守りプラス認知のアイシル」は、赤外線・温度・照度センサにより日常生活データを自動収集するとともに、起床や服薬などを本人が申告する仕組みを備えています。本研究では、長期間にわたり蓄積された活動量や室内環境、行動レスポンスデータを分析し、MCI（軽度認知障害）や脳卒中、急性心筋梗塞などの発症兆候を事前に捉える可能性を検討しています。

分析の結果、活動性の季節変動に地域特有の傾向が見られるなど、新たな知見も得られました。自然な生活環境下で取得したデータを活用し、疾患の早期発見と予防につなげる実践的研究を進めています。



「見守りプラス認知のアイシル」のセンサ機器
（出典：株式会社アイトシステム Web サイト）

地域との連携・地域への貢献に関する教員の活動

情報学部

北京都デジタルパーク2025

担当教員：北近畿地域連携機構長 西田豊明
関係組織：福知山市、福知山商工会議所、福知山市商工会
連携・協力者：情報学部 教授 倉本到、准教授 橋田光代、准教授 衣川昌宏、DX アシスタントオフィサー 公手敏裕

2025年9月26日・27日、福知山市三段池総合体育館で「北京都デジタルパーク2025」が開催されました。38事業所と6公的機関が出展し、AIやロボット、DX事例など地域課題の解決に資する先進的な取組を紹介しました。

本学は「DXで地を究め 知を創る福知山公立大学」をテーマに出展。インタラクティブゲームや自動ハモリ体験、デジタルサイネージ、大学DX推進事例などを体験型で展示し、「体験・対話・共創」を重視した参加型ブースを展開しました。子どもから事業者まで幅広い来場者が訪れ、研究成果の社会実装や新たな産学連携の契機となりました。

本イベントは、地域におけるデジタル活用の可能性を共有し、継続的な連携へと発展させる重要な機会となりました。



ゲーム体験を通じてデジタル技術に触れる児童とサポートを行う学生

土壌水分量の可視化を目的とするIoTの研究

担当教員：情報学部 教授 井上一成
関係組織：京都府丹後農業改良普及センター

本研究は、防災分野でのIoT活用に関する講演を契機に、農業分野における土壌データの可視化ニーズを受けて始まりました。近年の酷暑や気候変動により、農地の水分管理は一層重要となっており、京都ブランド農作物である黒大豆の安定生産にも客観的な水分把握が求められています。

従来広く用いられるTDR方式は高精度である一方、高価で設置地点が限られるという課題があります。そこで本研究では、低コストで多地点観測が可能な静電容量方式に着目しました。電子工学の知見を活かして、出力変動や消費電力などの技術的課題を学生とともに改良。3回の現地実験を通じて、TDRに近い精度を持つ安価な測定システムの有効性を確認しました。

本研究は、「農業×IoT」による持続可能な農業支援モデルの構築を目指す実践的な取り組みです。



井上ゼミによる現地実験の様子

大阪・関西万博での催事出展にかかる体験企画の開発・運用支援業務

担当教員：情報学部 教授 倉本到
関係組織：福知山市健康福祉部健康医療課

2025年開催の大阪・関西万博において、福知山市が掲げる「献血と骨髄バンクの支援を広げる都市宣言」を発信するため、体験型コンテンツの共同開発を行いました。万博内イベント「地方創生SDGsフェス」(5月28日～6月1日)での出展を目的とした取組です。

開発したのは、①献血後の血液の流れを疑似体験できるミニゲーム「血液ファクトリー」(約2分で体験可能)、②知識を楽しく学べる「献血・骨髄バンククイズ」の2種類。子どもから大人まで直感的に参加できる設計としました。

市職員と大学教員・学生が連携し、Slackやオンライン会議を活用して約2か月で完成。短期間ながら完成度の高い体験型学習コンテンツを実現し、来場者の理解促進に貢献しました。



地域創成 SDGs フェス 福知山市ブース

情報学部では、デジタル技術やデータサイエンス、ICTを活用し、地域社会や教育機関、企業、行政等と連携した多様な研究・実践活動を展開しています。地域と協働して取り組んだ情報学部教員の主な活動事例を抜粋して紹介します。

大江山みすずの村リサーチベース

担当教員：情報学部 教授 山本吉伸
関係組織：チームみすず、福知山市役所大江支部、大江まちづくり協議会

人口減少・高齢化が進む中山間地域において、大学の教育・研究成果を地域へ還元する拠点として、2025年10月に大江山口内宮駅近くに「大江山みすずの村リサーチベース(ORB)」を設立しました。大学生が継続的に地域と関わり、学びを深める実践拠点です。

ORBでは、サービス工学の研究成果を地域で実証し、ITに関する地域ニーズを発見することを目的としています。観光客と住民の価格差設定の提示方法や、食べ放題と従量課金の適切性などを、実際のサービス提供を通じて検証。自ら運営する拠点であるため、柔軟な試行と改善が可能です。

教育・研究・地域貢献を一体化した実践フィールドとして、ORBは地域と大学を結ぶ新たなモデルを構築しつつあります。



大江山みすずの村リサーチベース(ORB)での交流イベントの様子

福知山商工会議所 FabLabで始める小さなデジタル革命

担当教員：情報学部 准教授 衣川昌宏
関係組織：福知山商工会議所

本事業は、大学が運営するFabLabの設備や知的資源を地域企業へ還元し、産学連携と人材育成を促進する取組です。商工会議所の依頼を受け、会員事業者を対象にFabLab活用講座を実施しました。

講座では、3Dプリンタ、レーザーカッター、UVプリンタなどの特徴や加工原理、対応素材、活用事例を解説。試作開発や治具製作、部品修理といった具体例を紹介するとともに、設計から加工までの工程をデモ形式で示し、短期間で形のできるデジタルものづくりの利点を体感してもらいました。

教員と学生が連携して運営にあたり、大学の技術が地域産業へ応用される可能性を共有。地域企業との対話を通じ、今後の協働や技術支援につながる基盤を築く機会となりました。



3Dプリンタの特徴や活用事例を紹介する様子

バイオリギング・データサイエンスを用いたオオミズナギドリの行動データの解析

担当教員：情報学部 教授 畠中利治、情報学部 講師 吉田誠
関係組織：京都府立西舞鶴高等学校
連携・協力者：京都冠鳥調査研究会 須川恒、狩野清

舞鶴沖の無人島・冠島で調査が続く京都府の鳥・オオミズナギドリを対象に、高校生の探究活動を高度化するため、AIとデータサイエンスを活用した解析支援を行っています。

今年度からはGPSロガーを装着するバイオリギング調査を開始し、繁殖期の移動経路や採餌域、渡り経路の把握を目指しています。本学は現地調査に同行し、個体数カウントや機器設置を支援。取得データをGISで解析し、採餌旅行の移動範囲や滞在時間、夕刻の「鳥まわり」行動の飛行軌跡を可視化しています。

さらに生成AIを活用した学習支援により、高校生が短期間で解析技術を習得できる環境を整備。自然環境保全に資する研究と次世代人材育成を両立する連携事業です。



GPSロガーを装着したオオミズナギドリ

小中高大連携

北近畿の小学校・中学校・高等学校と連携し、大学のキャンパス見学や授業等の体験を実施しています。本報告書で紹介する4件のほか、高大連携として出張講義や高等学校の授業・イベントへの参加等も行いました。

小学校との連携事例

施設見学 福知山市立大正小学校

2026年2月4日、福知山市立大正小学校2年2組の児童26人が、生活科「もっと知りたい たんけんたい」の学習の一環として本学を訪れ、キャンパス見学を行いました。

はじめに、本学地域経営学部の杉岡秀紀准教授および本学職員より、本学の概要や大学での学びについて説明を行いました。説明は、児童の皆さんが事前に準備してくれた質問に答える形で進められ、「どのような勉強をしているのですか」「全校で何人いますか」「仕事をされていてうれしいことは何ですか」など、たくさんの質問が寄せられました。児童の皆さんは、熱心に耳を傾けながら話を聞く様子が見られました。

その後、講義室やメディアセンターなどの施設を見学しました。メディアセンターでは、多くの書籍が並ぶ空間に関心を示し、「どのくらい本があるのですか」といった質問も寄せられるなど、興味深く見学する姿が印象的でした。



大学のメディアセンターに興味を持ち、質問する児童



中学校との連携事例

学生交流 舞鶴市立和田中学校

2026年2月6日、舞鶴市立和田中学校1年生26人が、探究的な学習「和田クエスト」の一環として本学を訪問しました。はじめに、杉岡准教授による講義が行われ、その後、杉岡ゼミの学生が各グループに入り、生徒の個人探究テーマについて意見交換を行いました。「なぜ舞鶴市には2つのまちがあるのか」「なぜ学校に行かなければならないのか」「どうすればいじめをなくすることができるのか」など、多様な問いをもとに、課題の整理や問いの深め方について学びました。

昼食は学内のPILLAR Diningで学食体験を行い、食後にはゼミ生による「大学ってどんなところ？」をテーマとした紹介がありました。

最後に、講義室やメディアセンターなどの施設を見学し、大学での学びの環境を体感しました。



PILLAR Dining(学生食堂)で学食を体験する生徒



高等学校との連携事例

協働支援 京都府立福知山高等学校

2025年11月22日・23日、本学地域防災研究センターと大門ゼミ、本学学生団体「七福ふこう隊」が、京都府立福知山高等学校と協働し、石川県七尾市・輪島市・珠洲市において「次世代へつなぐ支援のパートナープロジェクト」を実施し、被災地の現状を学ぶとともに、住民の方々との交流活動を行いました。



七尾市での織日カフェで交流を楽しむ参加者と学生

初日は、七尾市中島町にて輪投げ大会や緑日カフェなどの交流企画を実施し、避難生活や復旧への思いを直接伺いました。住民の方々の対話を通して、災害支援における人と人とのつながりの大切さを学びました。2日目は、輪島市や珠洲市の被災地域を視察し、海岸隆起や火災跡などを自らの目で確認することで、復旧の現実と課題を実感しました。

本活動は、若い世代が被災地と向き合い、支援の思いを次世代へつなぐ貴重な学びの機会となりました。

出張講義 京都府立綾部高等学校

2026年2月24日、情報学部 井上一成教授が、京都府立綾部高等学校にて、1・2年生429名を対象に講演会を実施しました。



AIの利便性とリスクについて学ぶ講演の様子

本講演会は、令和7年度高等学校DX加速化推進事業(DXハイスクール)に採択されている同校において、生徒がAIリテラシーを理解し、主体的に活用できる力を育成することを目的として開催されたものです。

講演は「AI時代を生きるためのリテラシーと活用の視点」と題して行われました。生成AIごとの特徴や具体的な活用例、利便性と危険性について紹介があり、生徒たちは熱心に耳を傾けました。また、LINEやインスタグラムにおける位置情報の取り扱いに関する注意点や、各生成AIサービスでのプライバシー設定についても具体的な説明があり、身近な事例を通して理解を深めました。

今回の講演は、生徒の皆さんがAI時代に必要視点を身につけ、自ら考えながら情報技術を活用していく姿勢を養う貴重な機会となりました。



附属機関

本学では、教育・研究活動を支える附属機関として、国際センター、地域防災研究センター、数理・データサイエンスセンターを設置しています。各センターでは、それぞれの専門分野を生かし、教育・研究の推進と地域社会への貢献に向けた多様な取組を展開しています。

地域防災研究センター

地域防災力向上を目指す研究・教育拠点

地域防災研究センターは、本学の地域経営学および情報学の専門的知見を活かし、福知山地域を中心に防災データの収集・分析を行い、地域防災の現状把握と課題抽出、具体的な対策の検討を進めています。研究成果を社会へ還元し、実効性ある地域防災モデルを提言することで、自治体の防災・危機管理体制の強化に貢献することを目的としています。

主な取り組みとして、防災士養成講座を開講し、2日間の座学と普通救命講習を含む3日間の短期集中型カリキュラムを実施しています。過去3年間で88人の防災士を養成し、地域や職場で防災リーダーとして活躍できる人材の育成を進めています。

また、地域防災連続セミナーを開催し、「災害と対応」「復興」「準備」「福知山」をテーマに多様な専門家を招いて議論を重ねています。特別回では2023年8月に発生した急襲型豪雨による土砂災害を取り上げ、地形や森林状況、地域特有のリスクに着目しながら、市民とともに防災を「自分ごと」として考える機会を創出しました。研究・人材育成・地域連携を一体的に推進し、持続可能な地域防災力の向上を目指しています。



3日間の短期集中型カリキュラムで、防災士としての知識とスキルを習得

国際センター

国際交流とグローバル人材育成を推進

国際センターは、海外の大学・研究機関との連携を通じて学術交流を推進し、日本の地域課題とその解決知を国内外へ発信するとともに、世界的視野を持ち地域で活躍できる「グローバル人材」の育成を目指しています。留学プログラムの充実、海外学生の受け入れ、多文化共生事業や出張講義などを通じて、大学と地域の国際化を進めています。

2025年度は、学生・市民・ALT・海外教員が参加する英語サロンを開講し、オンラインも交えた国際交流を実施しました。また、福知山市教育委員会による中学生のカナダ短期留学の事前学習を支援。さらに、台湾の静宜大学や国立台中教育大学からの短期留学生を受け入れ、ホームステイや文化体験を実施しました。

加えて、ディーキン大学(オーストラリア)への短期留学、台湾・台中市での短期留学プログラム、英語スピーチコンテストの開催など、多様な学修機会を提供し、学生の語学力向上と国際的視野の拡大を図っています。



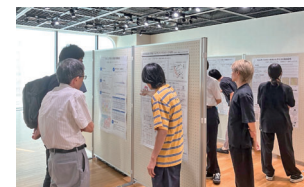
台湾からの交換留学生と本学学生の交流

数理・データサイエンスセンター

データサイエンスを通じて地域課題の解決に取り組む

数理・データサイエンスセンターは、生成AIの発展を支える数理学・統計学・データサイエンスの教育・研究拠点として2022年度に設立されました。北近畿地域の中核拠点として学内外と連携し、社会に貢献するデータサイエンスの普及と研究推進に取り組んでいます。研究面では、オオミズナギドリ生態データ解析や、福知山市の救急出動データを活用した需要予測、消防活動におけるAI支援など、地域課題に直結する共同研究を展開し、成果を学会や地域機関へ還元しています。

教育面では、文部科学大臣認定の数理・データサイエンス・AI教育プログラムを実施し、2020年度から2025年度前期まで632人が履修認定を受けました。さらに、研究会の開催や社会人向け講座への参画を通じて、地域に開かれた学びの拠点としての役割を担うとともに、次世代人材の育成を一層推進しています。



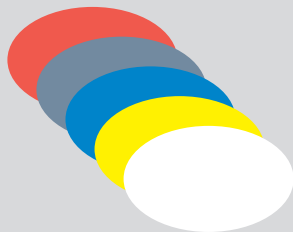
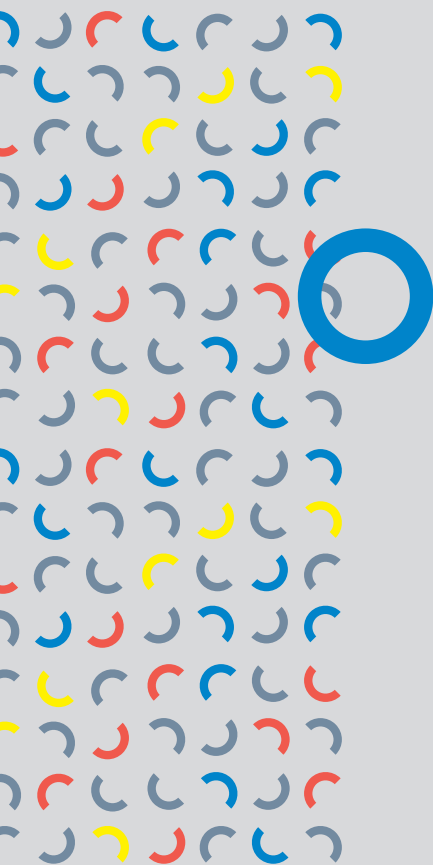
福知山数理・データサイエンス研究会でのポスターセッションの様子

REPORT 2025

25

AL

RT



ANNUAL

REPORT 2

2025 ANN

REP

202

Kita-re
北近畿地域連携機構

〒620-0886 京都府福知山市字堀3370
TEL 0773-24-7151 FAX 0773-24-7152
Mail kita-re@fukuchiyama.ac.jp
<https://www.fukuchiyama.ac.jp>